

ドライアイ患者の治療遵守に向けた アドヒアランス調査

新お茶の水薬局 菊池順子 弥吉久仁子 木村紗由香

目的

近年、ドライアイの点眼薬が次々に発売され治療の選択肢が広がった。一方、症状の改善後も継続した通院治療が必要にもかかわらず、点眼回数を勝手に増減、或いは中断する人が多く見受けられる。そこで、患者の使用状況を調査し、点眼遵守に影響を及ぼす因子を検証し、継続治療に向けた服薬指導の方法を考える。

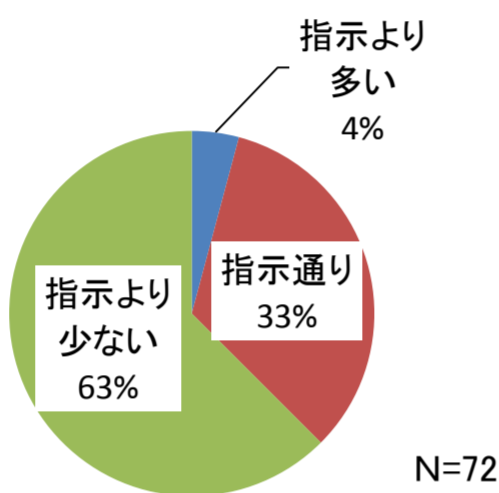
方法

2014年5月6日より2014年6月30日までの期間、ドライアイの治療薬を2種類以上使用し、6か月以上通院している患者72名を対象に点眼状況、指示通り点眼できなかった場合の理由、及び作用機序の違いが理解できているか、についてのアンケート調査を行った。

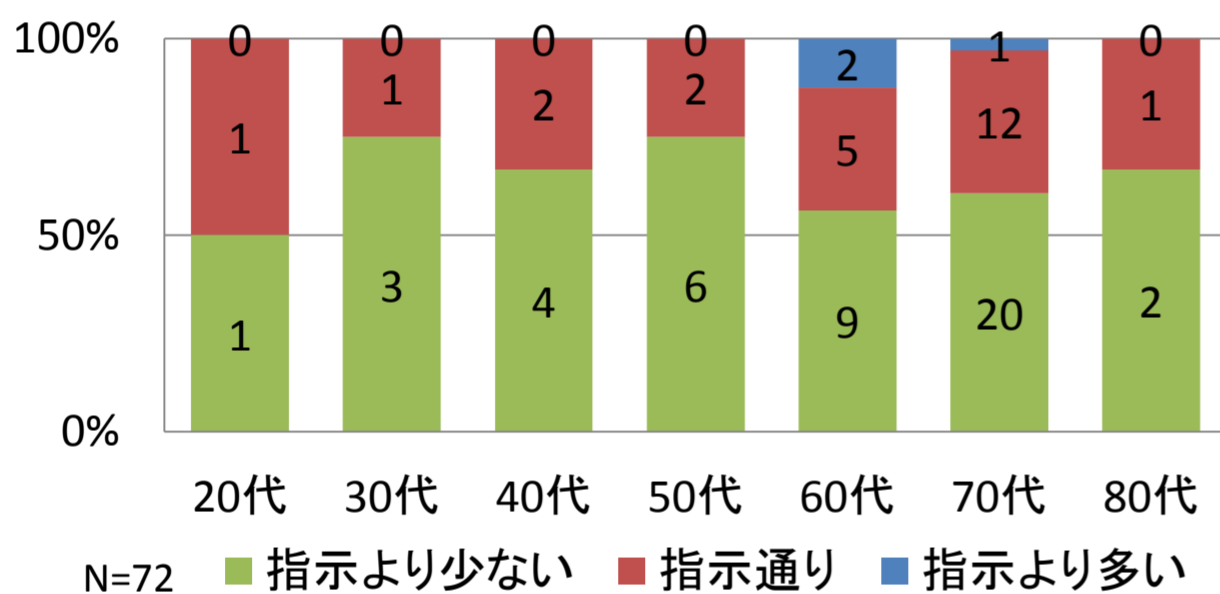
結果

点眼遵守の割合

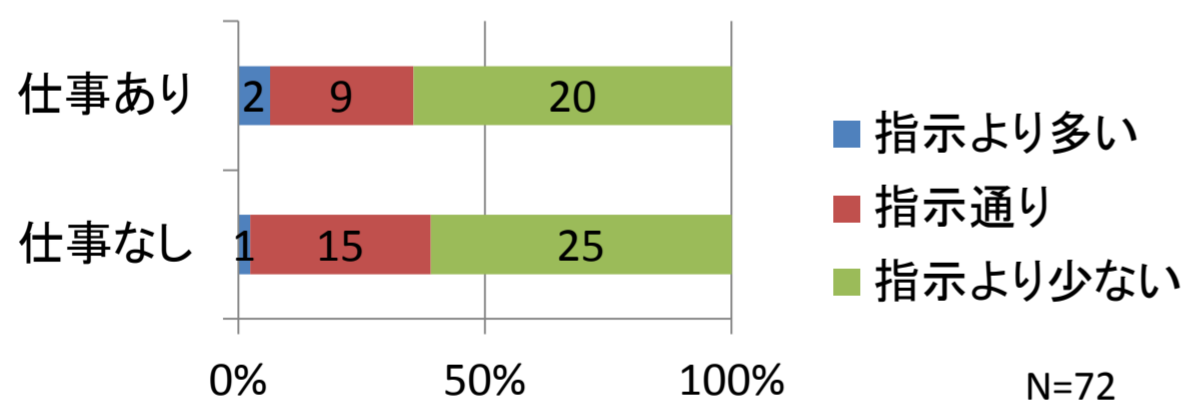
調査対象：男性12名
女性60名
平均年齢：65±14歳



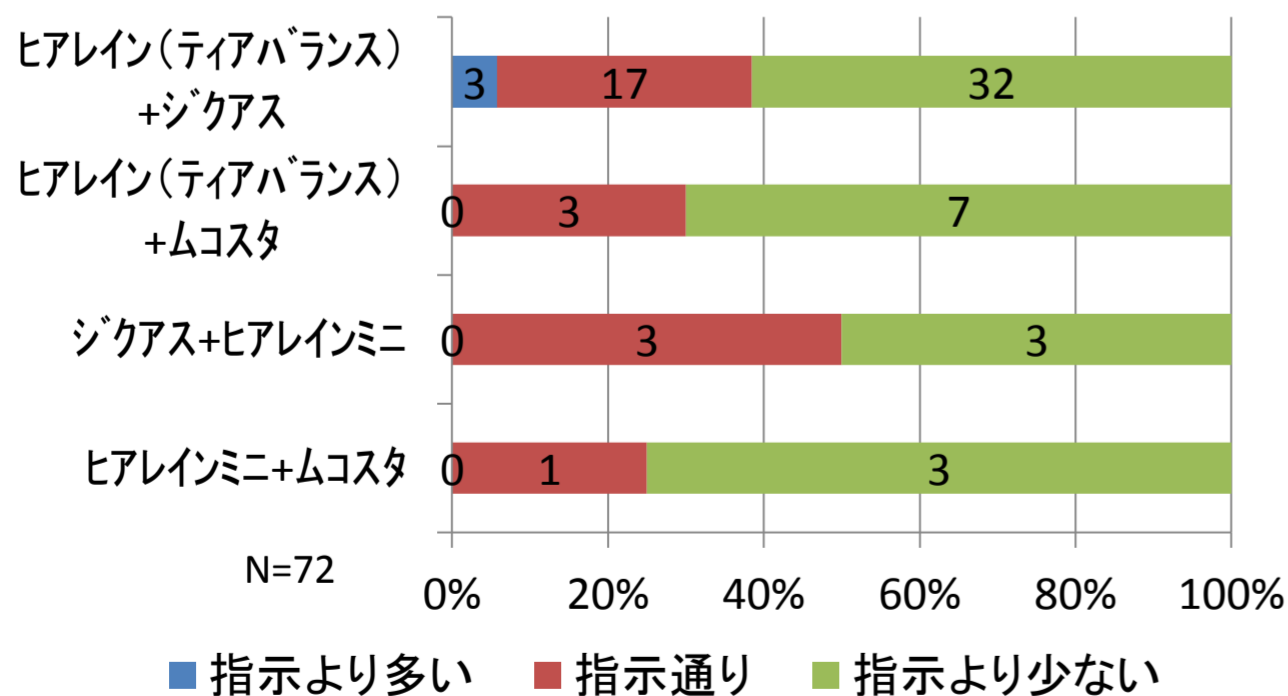
年齢による違い



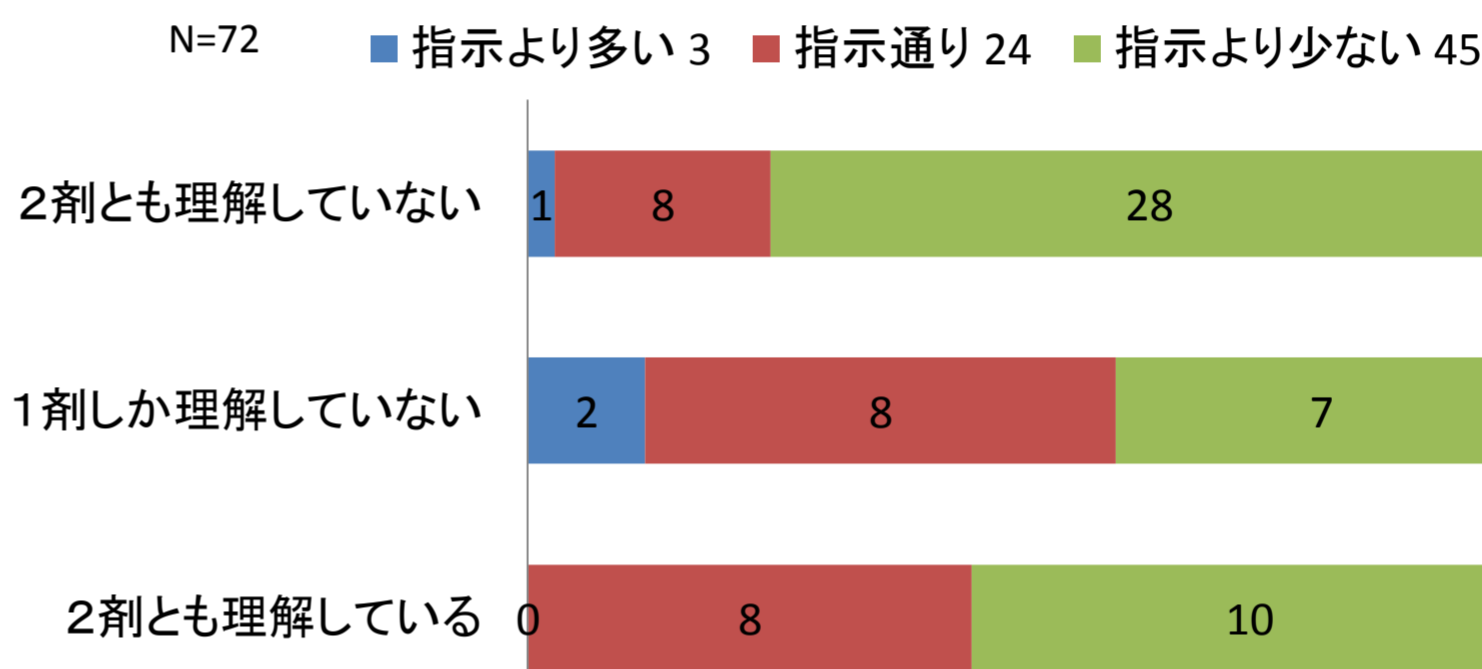
仕事の有無による違い



使用薬剤の組み合わせによる違い



作用機序の理解の違い



<点眼回数を守れない理由>

点眼回数の多い理由	指示された回数では足りない	3
点眼回数の少ない理由	・外出中	22
	・忙しい	16
	・仕事中	11
	・症状の改善	8
	・うっかり忘れる	4
	・回数が多すぎる	1
	・面倒だから	1

(※複数回答)

- ✓ 点眼遵守に影響を及ぼす因子として、年齢、仕事の有無、点眼薬の種類について解析したが、どれも有意な差はなかった。
- ✓ 作用機序を理解できていない人は、理解できている人より点眼回数を守れていない傾向がみられた。
- ✓ 指示より多く点眼している理由は全て、「指示された回数では足りない」であった。指示より少ない理由に「症状の改善」を挙げているのは、8名しかいなかった。
- ✓ 自覚症状の有無に関係なく、外出中、忙しい、仕事中等を理由に点眼回数を減らしている人が多く見受けられた。

まとめ

- 薬剤師はドライアイ治療のアドヒアランス向上の為に、多剤併用時には作用機序の違いを説明し、併用の必要性を理解してもらうことが重要である。⇒現在、メーカーと患者指導用冊子の作成を検討中。
- 自覚症状の有無に関係なく、点眼回数を減らしている人が多くいたことより、点眼回数を守り、点眼を継続することがドライアイ治療には重要であることを伝える必要がある。
- また、患者の声を通して配合剤、持続性等の点眼回数が少なく済む、使い易い製剤の開発をメーカーに提案していきたい。